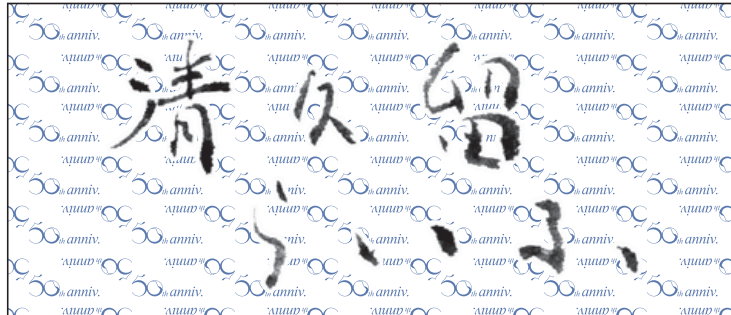


## 芋堀り&交流会 やります

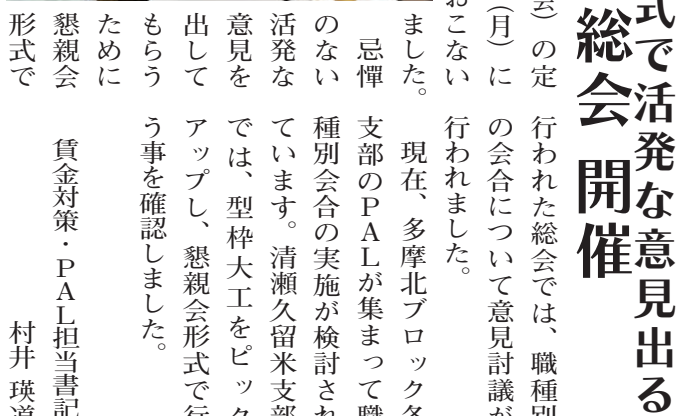
6月16日(日)に開催します。  
詳しくは群会議でお配りするチラシを  
ご覧ください。



発行所  
東京土建一般労働組合  
清瀬久留米支部教育宣伝部  
〒203-0054 東久留米市中央町5-10-17  
TEL 042-473-8751  
FAX 042-473-8753  
発行者 尾 芦 富 雄  
編集者 池 崎 健 司

## 3月は総会ラッシュ

年度替わりの3月から4月にかけては、1年の各運動の取り組みをまとめる、いわば総会ラッシュです。今回、3月に実施した主婦の会カトレア・シニア友の会・PALの3つを紹介します。なお、各分会と青年部の総会は次号掲載予定です。



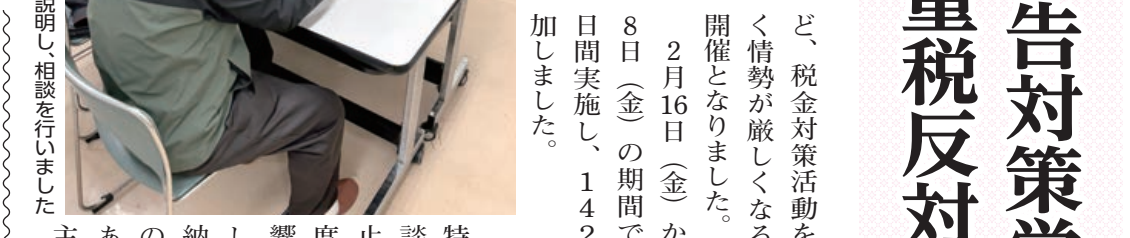
PAL(職長の会)の定期総会を3月25日(月)に14人の参加でとりおこないました。現在、多摩北ブロック各支部のPALが集まって職別会合の実施が検討されています。清瀬久留米支部では、型枠大工をピックアップし、懇親会形式で行う事を確認しました。

懇親会形式で  
賃金対策・PAL担当書記  
村井瑛道

## 納税者の権利を守れ!

### 確定申告対策学習会と 3・13重税反対東村山地区総決起集会

《確定申告対策学習会》  
昨年10月からのインボイス制度強行、相談活動停止命令制度の創設など、税金対策活動を取り巻く情勢が厳しくなる中での開催となりました。2月16日(金)から3月8日(金)の期間で延べ13日間実施し、142人が参加しました。



今回は「相談活動停止命令制度や相談活動停止の影響を考慮し、申告業者からインボイス登録した納税者に対しては、「消費税納税の2割特例」など、一時的な負担抑制策はあるが、消費税率の引き上げにより、インボイス制度が強行され、中小規模事業者の仕事と暮らしは一層厳しさを増す中で、3月14日(木)に東村山中央公民館ホールで開催されました。全体で120人(支部から25人)が参加し、民主的な税制確立を訴えました。

三多摩春闘共闘会議や都議会議員が来賓で駆けつけました。「インボイス制度の強行により、小規模事業者は廃業の危機に立たされている」

「今行おうのはインボイス制度ではなく消費税の減税だ」と訴えがありました。

税金対策部担当書記  
本島厚司

物価高騰に歯止めがかからない中で消費税のインボイス制度が強行され、中小規模事業者の仕事と暮らしは一層厳しさを増す中で、3月14日(木)に東村山中央公民館ホールで開催されました。全体で120人(支部から25人)が参加し、民主的な税制確立を訴えました。

《3・13重税反対  
東村山地区総決起集会》

## シニア友の会総会 開催される



3月2日(土)に役員と会員合わせて26人の参加でした。前回の経験を踏まえ、事前の役割分担をした結果スムーズな進行となりました。総会内では、廃業して東京土建を去る仲間がいる中で、組織の継続のメリット、シニア友の会加入のメリットを押し出すべきだとの意見が出されました。

また終了後には懇親会も実施され、組合のことや健康のことについてぎくばらんに話し合っていました。

シニア友の会担当書記  
村井瑛道



## 未来の活動参加者にバトンを 主婦の会カトレア 定期総会



3月16日(土)に第53回主婦の会カトレア総会を開催しました。会員、役員、支部来賓を合わせて16人が出席しました。現役員の高齢化と新しい役員候補が見いだせない状況が長く続き、次の世代にバトンを渡すための期間を設けるため、今回の総会で3年間の活動休止を提案し承認されました。出席した会員からは主婦の会カトレアでの思い出が語られ、一様に「さみしい」との声が聞かれましたが、新しい活動の担い手を掘り起す決意も語られました。今回の総会をもって、長く会長の務められた青空分会の柳本さんが退任されました。長らく主婦の会カトレアの活動を支えてくださったお礼に、ご家族の皆様へ改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

主婦の会カトレア担当書記  
本島厚司





# デコカー制作実施中!

5月1日(水)多摩地区 行なわれます。青年部が中心となり制作活動をしていきます。支部では今年度のテーマは「増税メガネ」



右:青年部ががんばっています。どんな作品になるでしょうか



## 健診シーズンがやってきた! 清瀬診療所の日曜健診 2024春

4月から6月にかけて、日曜院所健診を実施しています。予約人数に限りがありますのでお早めにお申し込みください。

[と き] 5月19日、26日、6月9日、23日  
いずれも日曜日

[ところ] 清瀬診療所(清瀬市元町1-13-27)

[お問い合わせ] 支部または清瀬診療所  
(TEL:042-493-2727)へ。



左:1954年のメーデーの様子

1886年5月1日、当時1日12~14時間労働が当たり前であった環境を改善しようと、アメリカのシカゴで35万人もの労働者が集まり、大規模なストライキを起しました。当時の労働者は、低賃金、長時間労働と過酷な生活を強いられており、これを改善するために労働者自らが

立ち上がったのが始まりです。そして日本で初めてメーデーが行われたのは、1920年、東京・上野公園。集まった労働者は約1万人近くで、8時間労働制や最低賃金の制定などを訴えました。

そして、8時間は労働の為に、8時間は休息(睡眠)として残り8時間は自分たちの自由な時間のために、というメーデー誕生当初の主張は、いままも私達に語り



過去にはこんなデコカーも作りました

## 一人親方労災 未更新者へのお知らせ

3月に労災保険の更新を行いました。更新が済んでいない方へ4月に更新日を設けています。別途案内も送付していますが、更新希望の方は手続きをお忘れにならないようお気をつけください。以下の日程で電話にて予約をお願いします。

月	火	水	木	金
	4月16日 午前 午後 夜間			4月19日 午前 午後
4月22日 午前 午後	4月23日 午前 午後 夜間		4月25日 午前 午後	4月26日 午前 午後

## 湧水

ご先祖様は闘っていた

故郷に帰るのは法事の時だけになってしまった。昨年末に叔父の葬儀があり、あわただしく帰郷した時のことである。二日前に氷点下18度を記録した菩提寺の寒い本堂での式が終わり、暖かい部屋でお茶をいただいているときに、住職からテレビで紹介された「からかさ連判状」の話があった。連判状というと、私の世代では忠臣蔵の仇討ちの「南部坂雪の別れ」のシーンが思い浮かぶが、これは70年ほど前に私の母方の生家の納屋から発見され、今は岩手県の博物館に収蔵されているという。江戸時代に沢内村で起きた百姓一揆の参加者が、首謀者(多くは名主。一番先に署名した)を隠すために名前を同心円状に記入した訴状で、一揆に参加することを誓ったこと、起請文の文書で、これによって確実な結末が

きたということ。西和賀町沢内は、奥羽山脈の山間の村で沢内三千石といわれるほど広い盛岡藩の隠し田の地でした。三千石というのは平年の出来高で、冷害になると厳しい気象条件から半分ほどに減ってしまいます。私の子供のころは積雪が2メートルをこえる豪雪地帯でした。曾祖母(ひいばあ)さんの子供の頃は7月になってやっと田植えができ、寒さで自分のおしっこで手を温めて田植えをしたと聞いたことがあります。飢饉のときは年貢米はもちろん、飢えをしのぐにも困難だったでしょう。そんな時に立ち上がったのです。

沢内は、数年前に「いのちの山河・日本の青空II」で映画になった地で、「生命尊重」の理念を掲げ、憲法25条を楯に老人と乳児の医療費無料化の行政を実現する深沢村長のことをご記憶の方もいると思います。「健やかに生まれ、健やかに育ち、健やかに老いる」あたりまえのことがきびしい時代ですが、ご先祖様にならって闘っていきたいと思います。



静かに冬を迎える十燈園

三葉分会 北島 晃